

【連載】

老健仕事人  医師

たかが老健、されど老健 老健だからできることがある



清水 剛 [しみず・つよし]

介護老人保健施設コスモスあがたまち（長野県）
理事長・施設長

老健施設に携わって10年足らず、さまざまな入所者とご家族、多職種の方々と接し、病院では得られない経験を積んでいくうちに、自分なりの老健医師としてのポリシーが少しみえてきたように感じております。少ない経験ですが、これまでを振り返って、私見を述べさせていただきます。

コスモスグループの紹介

私が所属する医療法人コスモスグループは、長野県長野市に拠点を置き、「コスモス長野」「コスモスさいなみ」「コスモスあがたまち」という3つの老健施設を中心に、診療所、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅、通所介護、通所リハビリ、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所などを、2つの医療法人、1つの社会福祉法人、2つの株式会社が協力して運営し、総合ケアを行う組織です。私はグループ内の2つの老健施設の診療や運営に深く関わって参りました。



コスモスグループのシンボルマーク。グループ名のコスモスに由来する、宇宙と花をイメージしている

これまでの私

大学卒業後、東京で心臓血管外科医として働いていた私は、当グループを運営する父の勧めで、52歳時（2012年）に長野市へ移住しました。当初は市内の総合病院の心臓血管外科部長を務めながら、当グループ内の施設の訪問診療などを担当し、その後、母が

施設長を務める「コスモスさいなみ」をサポートするようになりました。これまで高齢者の手術や術後管理に関わってきたことは老健施設の管理に役立ちました。

また、他科の医師に、専門外のことをいろいろと教えてもらえたことも有益でした。母が亡くなり、「コスモスさいなみ」の施設長となりましたが、病院も医師不足で、非常勤として勤務を続けました。現在は「コスモスあがたまち」の理事長・施設長と、併設のクリニックの院長として、一般外来と日帰り手術を行う傍ら、「コスモスさいなみ」の担当医も続けております。

老健施設に携わって感じたこと

多職種連携：病院でも多職種連携は重要ですが、医師の役割が大変大きいと思います。一方、老健施設の主役は介護職やリハビリ専門職であり、医師は脇役といってもいいでしょう。老健施設では多職種連携が病院以上に実践されていることを実感しました。

支える医療：高齢化社会において「治す医療から、治し支える医療へ」の転換が求められています。老健施設では、支える医療が中心となります。入所者がひどく体調を崩したときには無理をせず病院に搬送しますが、できるだけ重症化する前に対応できるよう心がけています。

情報収集：与えられた情報だけでは、入所者の現病歴、既往歴が不明瞭で、内服根拠が不明な薬剤が多々ありますので、臨床情報をできるだけ多く集める努力をしています。それでも不十分な場合は、併設の診療所などで検査を行い、できるだけ病状を把握するようにしています。